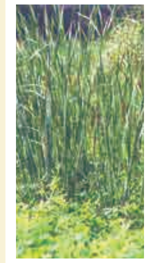
# のぞいてみよう。瀬野川の自然。



**ガマ**（ガマ科）夏

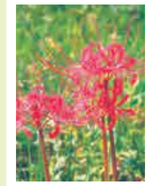
高さは2mぐらい。果実にはやわらかい毛がついている。（ガマの穂といわれるもの）（上流～下流域）

**オランダガラシ**（アブラナ科）春～夏

ヨーロッパ原産の帰化植物。若い葉や茎はサラダに供される。ビフテキなどの添え物としてもよく使われている。非常に繁殖力が強く川一面に群落が広がる。また、水の浄化力にも優れている事は良く知られている。

**アカザ**（アカザ科）夏

大きさは600mm～1500mm。葉の形は三角状の卵型で、縁は波状であり、葉全体は白色の粉状毛で覆われている。若芽は、食用に供される。（中流～下流域）



**ヒガンバナ**（ヒガンバナ科）秋

別名マンジュシャゲ 秋の彼岸の頃に真っ赤な花が咲く。葉は花の頃にはなくなるが、冬に茂り、濃い緑色となる。球根は毒があるがさらして薬にすることができる。高さは30cm～50cm（下流域）

**シダレヤナギ**（ヤナギ科）通年

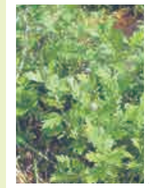
外来種で高さ10mにもおよぶ。枝が長くたれることからこの名がつく。枝はしなやかで細工物に利用され、和凧やかごなどに使われる。（上流～下流域）

**ネムノキ**（マメ科）初夏

大きくなる木で、花は孔雀の冠のようである。夜になると花はしぼむ。高さは6m～10mにもなる。（上流～中流域）

**シロツメクサ**（マメ科）春

ヨーロッパから来た外来種。一般的にはクローバーと呼ばれている。家畜の飼料に栽培されているが近年河原でもよく見られる。



**ミゾソバ**（タデ科）秋

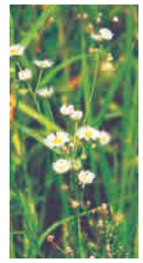
そばに似ているがそばではありません。日当たりの良い水田や川岸に群生する。別名カエルグサ ウシノヒタイなどと呼ばれているが葉の形が似ているからです。花もソバによく似ている。

**オオマツヨイグサ**（アカバナ科）秋

北アメリカから来た帰化植物で花は夏の夕方に咲く。高さは1～2mで、河原で良く見かける。（上流～下流域）

**クサヨシ**（イネ科）初夏

河川を代表する植物で春から初夏にかけて開花する。地下茎によって群生し中洲や湿った泥や細かい砂の堆積したところに群生する。クサヨシはヨシやツルヨシの仲間ではない別種である。



**ヒメジオン**（キク科）秋

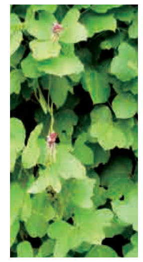
北アメリカから来た外来種。花は薄紫や白である。高さは50cm～1mくらいで荒地や河原で良く見かける。（上流～下流域）

**イヌビエ**（イネ科）秋

畑や道端、河原の雑草で、湿っぽい所では長いものある。高さは50cm～が多い。（上流～下流域）

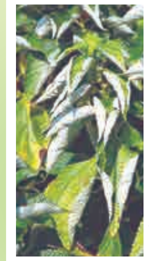
**カナムグラ**（クワ科）春～秋

つる草で、茎にトゲがありからまって伸びる。長さは数m以上になる、ヨシ帯の根元に一面に広がっている。（上流～下流域）



**クズ**（マメ科）秋

繁殖力が強く、瀬野川では川土手に群生して一面を覆いつくし、他の植物を寄せつけないほどである。根から取れるデンプンは、くず餅やくず切りなどに利用されている。冬には枯れて茎だけが残っている。



**カラムシ**（イラクサ科）夏

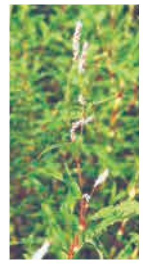
別名マオ 茎の皮から繊維をとることができる。葉の裏は白く1～2cmに伸びる。クワ草に似ているが花のつき方が穂状花序である。

**ツルヨシ**（イネ科）夏

川の中でこぶし大の礫が散在する環境に密生し、川面を覆うように生え、水質を浄化している。地上につるを張り群落をつくる。似た種類にヨシ・クサヨシ・ススキなどがある。

**キクイモ**（キクイモ科）秋

北アメリカから来た草花で、地下茎は芋状になり食用に供される。高さは1.5m～2.5mになり土手に密生する。（上流～中流域）



**オオイヌタデ**（タデ科）秋

高さ20cm～40cm。花の色はピンクである。川の中州などに密生している。（上流～中流域）

**ジュズダマ**（イネ科）秋

日の当たる川や沼の淵など湿地帯の近くに自生する多年草で、ハトムギと似ているが別種である。楕円形をした実はジュズにして子どもの遊びに使われている。

**ハクセキレイ** 冬～春

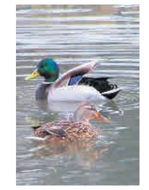
顔は白く、眼のところに黒い線がある。河原など開けた場所に生息しており、尾を上下に振りながら歩き、餌をさがしているところをよく見かける。

**カワセミ** 通年

全国の池や川にすんでいる。通年見られるが特に春から夏にかけて川で見かける。スズメくらいの大きさでその羽の色は川の宝石といわれている。

**ダイサギ** 通年

瀬野川で見られるシラサギはコサギとダイサギが多く、水面をじっと見て魚を捕っている。クチバシは黄色である。



**マガモ** 冬

北半球に広く分布し日本にも沢山渡ってくるカモの種類で冬鳥である。一部西日本で繁殖するものがいるが、ごく一部である。マガモを飼いならしてアヒルが作りだされたが、瀬野川ではアヒルと交雑し、見分けのつかないカモが生息している。主として淡水域に多い。

**ミサゴ** 冬～春

ワシタカ科で全国に分布する南の地方は留鳥である。瀬野川のミサゴは最近飛来するようになった。トビより大きく羽根の裏側は白いまだら模様である。

**カワウ** 冬～春

世界に分布するが日本のカワウは独特の亜種である。冬から春にかけては川で魚をとっている。棲家は川周辺の潅木でその糞は木を枯らすほどである。羽を広げ乾かす様は独特の生態である。

**アオサギ** 通年

広島県最大の鳥である。留鳥で一年中見られる。羽の幅は約1mに達する。ぬれた羽を乾かす様は、滑稽である。

**ヒドリガモ** 冬

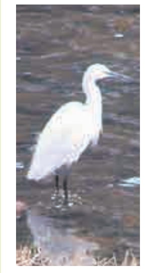
アヒルよりは小さいが、鼻筋が通り見分けやすい。冬鳥で瀬野川では、晩秋から早春まで見られる。

**ユリカモメ** 秋～春

秋から春にかけて川にやってくる。目の後方に三日月状の文様がある。留鳥。

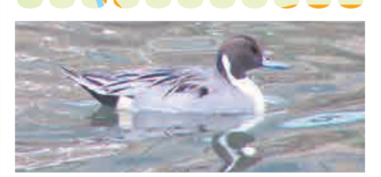
**ヒヨドリ** 冬

すずめより大きく、冬から春にかけて見られる留鳥。



**コサギ** 通年

アジア・アフリカ・オーストラリア等に生息する。日本では本州より南で、他のサギ類と集団で繁殖する。ダイサギ・チュウサギと比べて小型である。クチバシは黒色である。

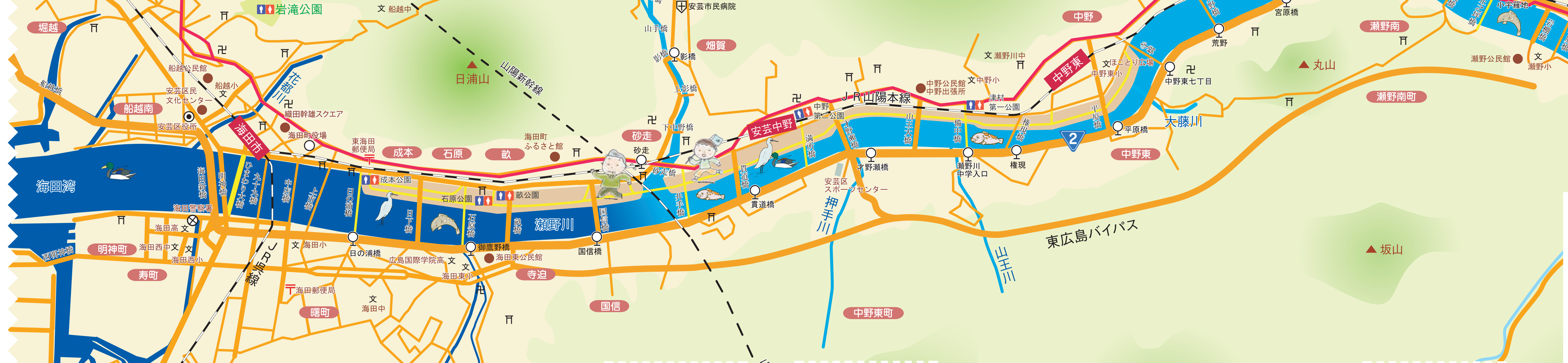


**オナガガモ** 冬～春

アヒルよりは小さいが、オスは尾が長く胸の辺りが白い。冬鳥で晩秋から早春まで見られる。

瀬野川には、多くの種類の生物を見ることができます。鳥類ではコサギ、アオサギ等のサギ類が、全区間にわたって生息しています。特に、中流域の瀬や淵は生物の良好な生育環境を形成しており、魚類ではメダカ、昆虫類ではハグロトンボやゲンジボタルを見ることができます。また、河口付近では、マハゼなどの汽水魚も見ることができます。

現在では、中流域の寺橋から下流の高水敷が、川に親しむことができる河川公園として整備され、ウォーキングや花見、地域行事の場として利用されています。また、地域住民によるクリーンキャンペーンなどの川の環境保全活動も活発に展開され、学校では総合的学習において子ども達が川の中に入って体験学習を行っています。



**カワムツ** 通年

通称ハヤ 体長は100mm～150mmで群れを成して泳いでいる。体側に黒い線があり、オスは真っ赤な婚姻色を呈す。（中流～下流域）

**コイ** 通年

瀬野川自生の魚ではなく、人為的に放たれたものと思われる。体長は40cm以上である。（中流～下流域）

**ナマズ** 夏～秋

瀬野川では近年生息数が増え小魚の脅威となっている。体長は40～60cmと大きく瀬野川最大の魚類である。鱗はなく体色は暗褐色で腹部は灰白色である。（中流～下流域）

**ヨシノボリ** 通年

通称ゴリ 体長は50mm～60mm。ハゼ科の魚で黒色型、ルリイロ型、横班型等多彩な色を有する。（上流～中流域）

**メダカ** 春

特に下流域の止水で見かける。体長は30～35mmで群れを成して泳ぐ。カダヤシと間違われるが、尾ひれが丸いのがカダヤシである。（中流～下流域）

**オイカワ** 通年

関東以西の西日本に分布するコイ科の淡水魚である。夏には婚姻色が鮮やかで、雄をアカモチ、アカマツ、雌をシラハエと言って釣り人に珍重されている。（中流～下流域）

**ドンコ** 夏～初冬

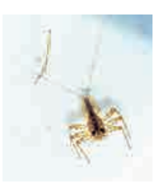
体形はズングリし黒褐色で不規則な雲状斑がある。動物食で小魚を漁り河川の淵などに生息する夜行性のスズキ目の魚である。（中流～下流域）

**アユ** 夏

香魚と呼ばれ夏から秋のアユ釣りは盛んであるが、最近は琵琶湖産の放流魚が多く、天然のアユは見られなくなっている。（中流域）

**ウルマシマトビケラ** 春

体長は20mm前後。芋虫形をし、礫面に巣を作る。精巧なネットをはり、えさを捕獲する。（上流～中流域）



**ヒラタカゲロウ** 春～秋

体は扁平で石にしがみついている。大きさは15～20mmである。国内では7属生息し、瀬野川では5種産す。（源流域）

**ゲンジボタル（成虫）** 夏

メスの体長は20mmオスは15mm位である。5月下旬から6月上旬にかけて羽化し川面を飛び交い夏の風物詩となっている。瀬野川では近年生息数が増えつつある。（上流～中流域）

**コカゲロウ** 通年

体長は10mm前後。小さなカゲロウで紡錘形で礫間を泳ぎまわるタイプである。全流域で見られるカゲロウである。（上流～下流域）

**カワニナ** 通年

マキガイの仲間で瀬野川には沢山生息している。ホタルの幼虫の餌になる。よくタニシと間違われるが、タニシは丸い。（中流～下流域）

**シロタニカワカゲロウ** 春～秋

体長は12mm前後。尾毛は3本あり頭部前方に4個の白い斑紋があり、成虫は春から初夏にかけて羽化する。（中流～下流域）

**アナジャコ** 通年

体長は100mmほどで干潟にY字がたの穴を作り生息する。穴の深さは1m以上にもなる。ヤドカリに近い仲間で釣りのえさとして使われる。（下流域）

**ミナミヌマエビ** 通年

体長20mm～30mmで体色は黒っぽい。瀬野川のヌマエビはミナミヌマエビで頭部先端と第二触覚の長さが同一である。（上流～下流域）

**チゴカニ** 通年

甲幅は10mmくらいの小さなカニで、目柄は長くハサミは白い、両ツメをいっぱい広げて体操する様から体操ガニの異名を持つ。（下流域）

**アシハラガニ** 通年

甲幅は40mm程度で、瀬野川では海田町の中店橋右岸の草のあるところや的場川などで見かける。アシなどの茂っている所を特に好んで生息する。（下流域）

**モクズガニ** 夏

甲幅は60mm～100mmで川に生息し産卵のため海に下る。ツメに毛が沢山生えているのが特徴である。（上流～下流域）

**サワガニ** 通年

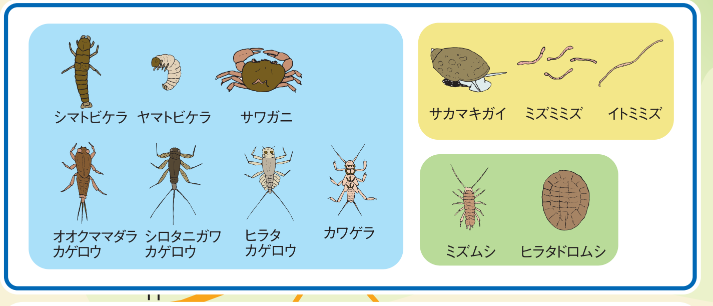
純淡水産のカニはこの種のみである。幼生期は親の体内で過ごし、稚ガニは親の腹にしがみついて生活する。（山地渓流）

**マハゼ** 春～秋

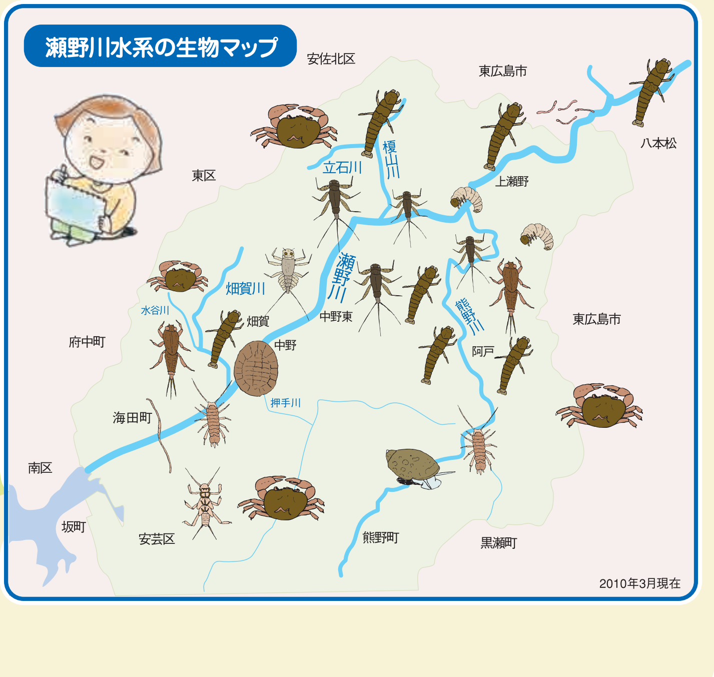
体は扁平で石にしがみついている。大きさは15～20mmである。国内では26種生息し、瀬野川では5種産す。（下流域）

**スミウキゴリ** 夏

ハゼ科の魚で、体長は70mmくらいで汽水域に住み下流域の淵やよどみに生息する。水生昆虫や小魚をえさとしている。珍しい魚の一種である。（下流域）

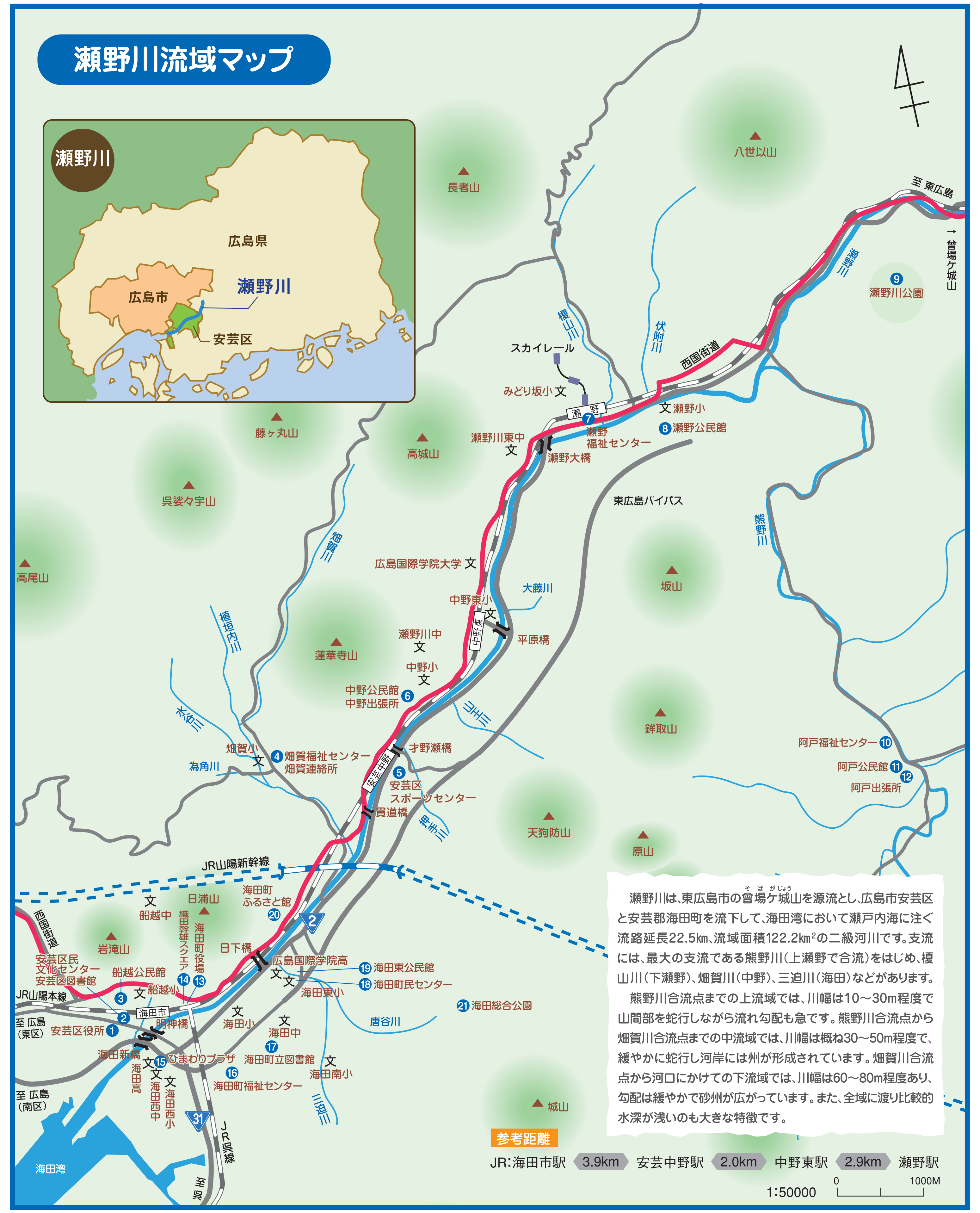

シマトビケラ
ヤマトビケラ
サワガニ
オオクママダラカゲロウ
シロタニガワカゲロウ
ヒラタカゲロウ
カワゲラ
サカマキガイ
ミズミミズ
イトミミズ
ミズムシ
ヒラタドロムシ

## 瀬野川水系の生物マップ



2010年3月現在

## 瀬野川流域マップ



瀬野川は、東広島市の曾場ケ城山（そばがじょう）を源流とし、広島市安芸区と安芸郡海田町を流下して、海田湾において瀬戸内海に注ぐ流路延長22.5㎞、流域面積122.2㎞$^2$の二級河川です。支流には、最大の支流である熊野川（上瀬野で合流）をはじめ、榎山川（下瀬野）、畑賀川（中野）、三迫川（海田）などがあります。

熊野川合流点までの上流域では、川幅は10～30m程度で山間部を蛇行しながら流れ勾配も急です。熊野川合流点から畑賀川合流点までの中流域では、川幅は概ね30～50m程度で、緩やかに蛇行し河岸には州が形成されています。畑賀川合流点から河口にかけての下流域では、川幅は60～80m程度あり、勾配は緩やかで砂州が広がっています。また、全域に渡り比較的水深が浅いのも大きな特徴です。

**参考距離**

JR:海田市駅 3.9km 安芸中野駅 2.0km 中野東駅 2.9km 瀬野駅

1:50000 0 1000M

| 施　設　名 | 電　話 | 施　設　名 | 電　話 | 施　設　名 | 電　話 |
|---|---|---|---|---|---|
| ① 安芸区役所 | 082-821-4904 | ⑥ 中野出張所 | 082-893-2121 | ⑭ 織田幹雄スクエア | 082-822-7373 |
| ② 安芸区民文化センター | 082-824-1330 | ⑦ 瀬野福祉センター | 082-894-2024 | ⑮ ひまわりプラザ | 082-824-1225 |
| 安芸区図書館 | 082-824-1056 | ⑧ 瀬野公民館 | 082-894-8006 | ⑯ 海田町福祉センター | 082-823-7500 |
| ③ 船越公民館 | 082-823-4261 | ⑨ 瀬野川公園 | 082-894-3210 | ⑰ 海田町立図書館 | 082-823-3215 |
| ④ 畑賀福祉センター | 082-827-0083 | ⑩ 阿戸福祉センター | 082-856-0294 | ⑱ 海田町民センター | 082-822-9946 |
| 畑賀連絡所 | 082-827-0600 | ⑪ 阿戸公民館 | 082-820-8222 | ⑲ 海田東公民館 | 082-823-2711 |
| ⑤ 安芸区スポーツセンター | 082-893-1998 | ⑫ 阿戸出張所 | 082-856-0211 | ⑳ 海田町ふるさと館 | 082-823-8396 |
| ⑥ 中野公民館 | 082-893-1234 | ⑬ 海田町役場 | 082-822-2121 | ㉑ 海田総合公園 | 082-824-2433 |